

令和5年度 家庭教育支援プログラム指導者研修② 実施報告

実施日：令和5年6月14日（水）

【午前の研修】

○ 事例発表・演習「親学習プログラムの実際」

宇都宮市教育委員会生涯学習課 副主幹 加藤 裕史 氏

始めに、宇都宮市の家庭教育支援事業について説明がありました。特に、活動内容や親学出前講座のためのプログラム作成などについて、丁寧にお話しくださいました。また、講座実施に向けての流れや実施上の難しいこと、支援者の思いについてもお話しくださいました。

次に、宇都宮市で今年度より実施するプログラム「ちょっと聞いて子育て座談会」を体験しました。ジャンケンを使ったアイスブレイクやカードを使った意見交換、参加者の緊張を和らげ、活動意欲を喚起するためのファシリテーターの言葉かけにより、受講者は安心して楽しくプログラムを体験しました。

受講者は、事例発表と演習を通して、各市町の活動の様子を知り、研修終了後の活動をイメージするとともに、ファシリテーターに必要な技術について学びました。



【午後の研修】

○ 演習「よりよい関係づくりを促すワーク体験」

上都賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 宮田 一士

芳賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 渡辺 浩行

下都賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 鈴木 正俊

塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 高瀬 志穂美

安足教育事務所ふれあいふれあい学習課 社会教育主事 若田部 晶子

家庭教育支援プログラムの導入時に行う「アイスブレイク」の演習を行いました。始めにその効果や意義について確認した後、インニシャル自己紹介やシウマイジャンケン、バースデーライン等、教育事務所職員の円滑なファシリテートのもとで、様々なアイスブレイクを体験しました。

受講者は、演習を通して自分たちの学ぶ場の雰囲気が和らぐ様子を実感するとともに、各活動の効果や特徴、より効果を高めるためのファシリテートの方法等、様々な気づきを得ていました。



○ 説明・演習「思春期版家庭教育支援プログラムについて」

思春期版家庭教育支援プログラムについて、その作成の背景や特徴、プログラムを実施するにあたっての留意点や地域のファシリテーターがプログラムを進めることの意義、また県立学校における実践の様子や事後アンケートの結果などを聞きました。

次に、「思春期とは、こんな時期です！」の演習を行い、付箋紙を用いたワークを体験しました。

受講者は、説明と演習を通して、思春期版家庭教育支援プログラムの理解を深めることができました。

総合教育センター職員



☆受講者の声（アンケートから）

- ・宇都宮市の事例発表を聞くことで、親学習プログラムが実際にどのように行われているのかを知ることができました。
- ・アイスブレイクは大事だと思いました。メインのワークとの組み合わせを考えて、講座を組み立てていきたいと思います。
- ・人と人とがつながるためには、安心して「話をする」ことの重要性を感じました。これからの仕事に生かしていきたいと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp